

2022年度イスラーム信頼学科研全体集会 参加報告

慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程

藪内 彩季

この度は全体集会で研究者の方々の発表と、「あいだ」をテーマにしたディスカッションに加え、ポスター発表の機会をくださり、ありがとうございました。発表者の方々の発表とそれに続く議論はもちろんのこと、ポスター発表で先生方や研究者の方々にご意見をいただく機会となり、とても勉強になりました。

・対立の「あいだ」をつなげるか について

鈴木さんの発表は、委任統治期のパレスチナにおいて紛争という状況下でお互いの信頼がどう築かれていくか、自伝や回顧録からさまざまなケースを紹介されていて、自伝や回顧録を用いて研究したいと考えている自分の研究にも近い部分が多く、とても勉強になりました。敵のなかにも「良い個人」がいる話を盛り込んでいる自伝の記述を紹介されていて、自伝の書き手がそのような経験を自伝に盛り込んだ背景や意義などを考え、とても興味をひかれました。また、19世紀にレバノンから欧米に渡っていったアラブ人についての研究も、人の移動という観点だけでなく、彼らの現地での適応の手段やビジネスについて見ていくことの面白さがあると思いました。

その一方で、昔農さんや熊倉さんのように、大きく異なる地域についても、「信頼」や「人々のつながり」という観点から見た研究を知ることができ、知見を深められました。また、今回は辻さんを招いて「あいだ」という観点から議論がされ、とても有意義で新しい観点だと思いました。

・ポスターセッション について

今回、ポスター発表者としてポスターセッションに参加し、自身の近代エジプトの知識人に関する研究を「つながり」に関連させて発表する機会をいただくことができました。今回のポスター発表では、19世紀のエジプトにおいてエフェンディーと呼ばれた近代知識人の交流と関係性、また彼らのウラマーとの関係について議論しましたが、質疑応答を通して、エフェンディーの世代を意識して研究することや、日本近代の研究を参照することの重要性に気付く良いきっかけとなりました。

コロナ禍の開催ということで、久しぶりに対面での会に参加したので、とても刺激的で勉強になる会となりました。このような機会をいただき、本当にありがとうございます。